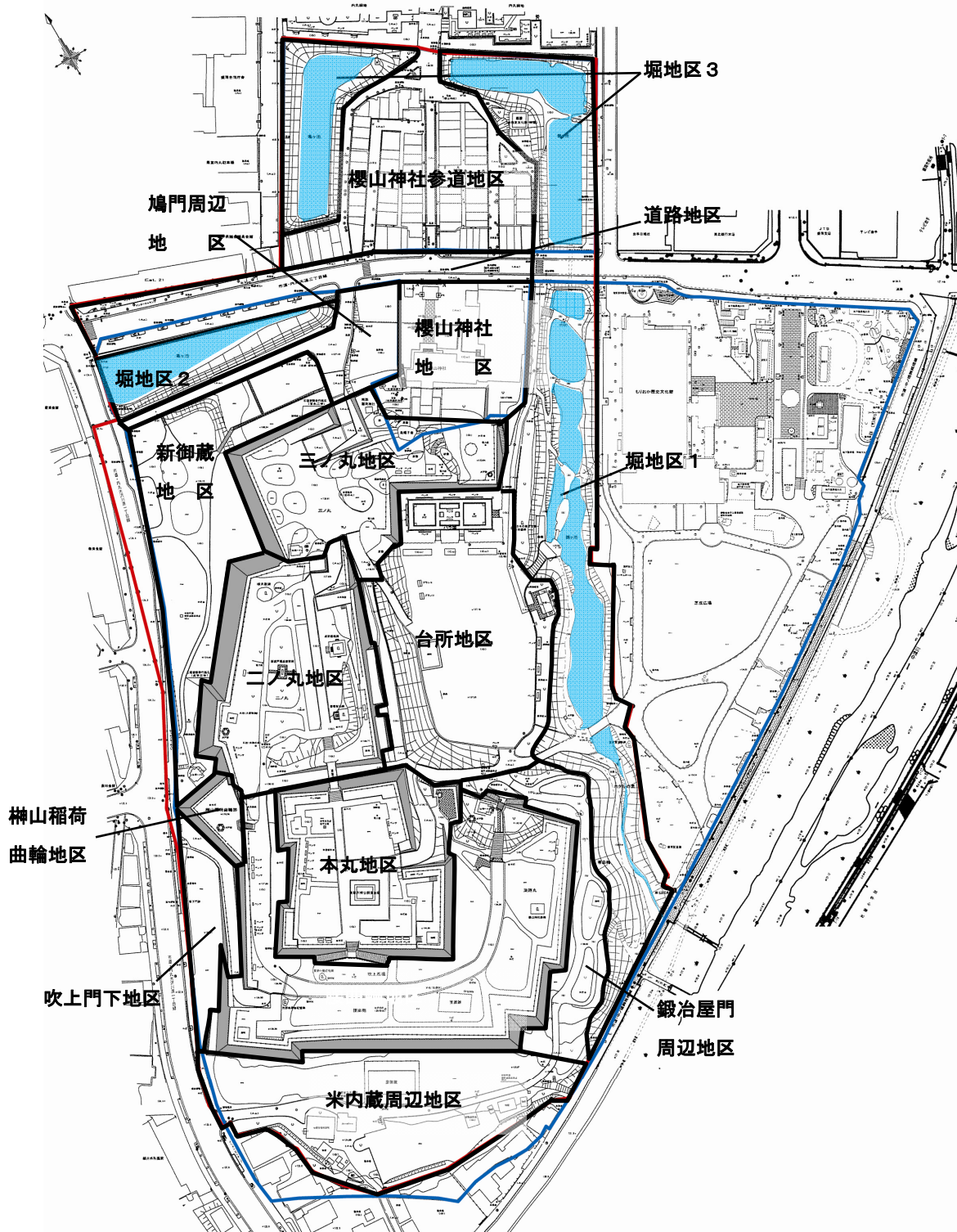


4. 各地区の現況

計画地内は、本丸、二ノ丸等盛岡城跡の主要な曲輪で構成される地区と、史跡指定地の外部と接するに周縁部地区に区分することができる。

それぞれは現況の利用状況等から下図のように細分できる。



第8図 現況地区区分図

1) 主要曲輪地区

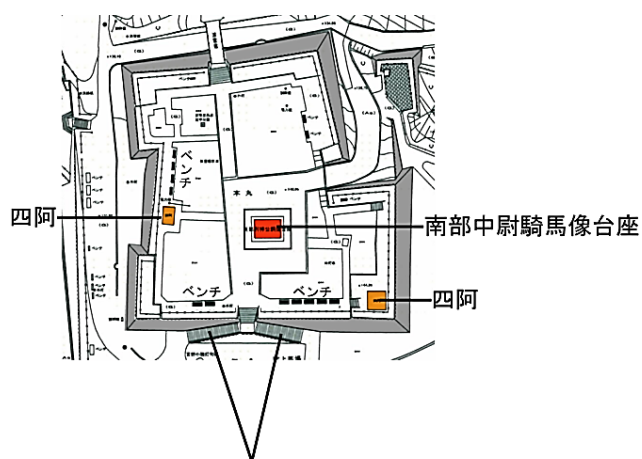
①本丸地区

城内で最も高く、周囲の眺望の開けた位置にあり、北は堀切を隔てて二ノ丸に面し、他の三方は一段低い腰曲輪に囲まれている。規模は東西 40～60 メートル、南北 60 メートルの広さをはかる。

中央には、日露戦争に従軍戦死した南部利祥中尉の騎馬像台座が位置している。南部利祥中尉騎馬像は、明治 41 年（1908）に戊辰戦争で盛岡藩が受けた賊軍としての汚名を晴らした功績を後世に残すため、東條英教、原敬、田中館愛橘、鹿島精一らが中心となって建立されたが、昭和 19 年（1944）に金属回収により供出され、現在では台座を残すのみとなった。

明治 39 年の公園整備の際に植栽されたモミジ・カエデ類が多いが、チョウセンゴヨウマツ等の針葉樹も大木となっており、夏はうっそうとした雰囲気となる。

紅葉の季節をはじめ、季節を通じて多くの観光客が訪れている。



明治時代に設置された石段
第 9 図 本丸地区現況図



南部中尉騎馬像台座



明治期に設置された石段



本丸西側の四阿

②二ノ丸地区

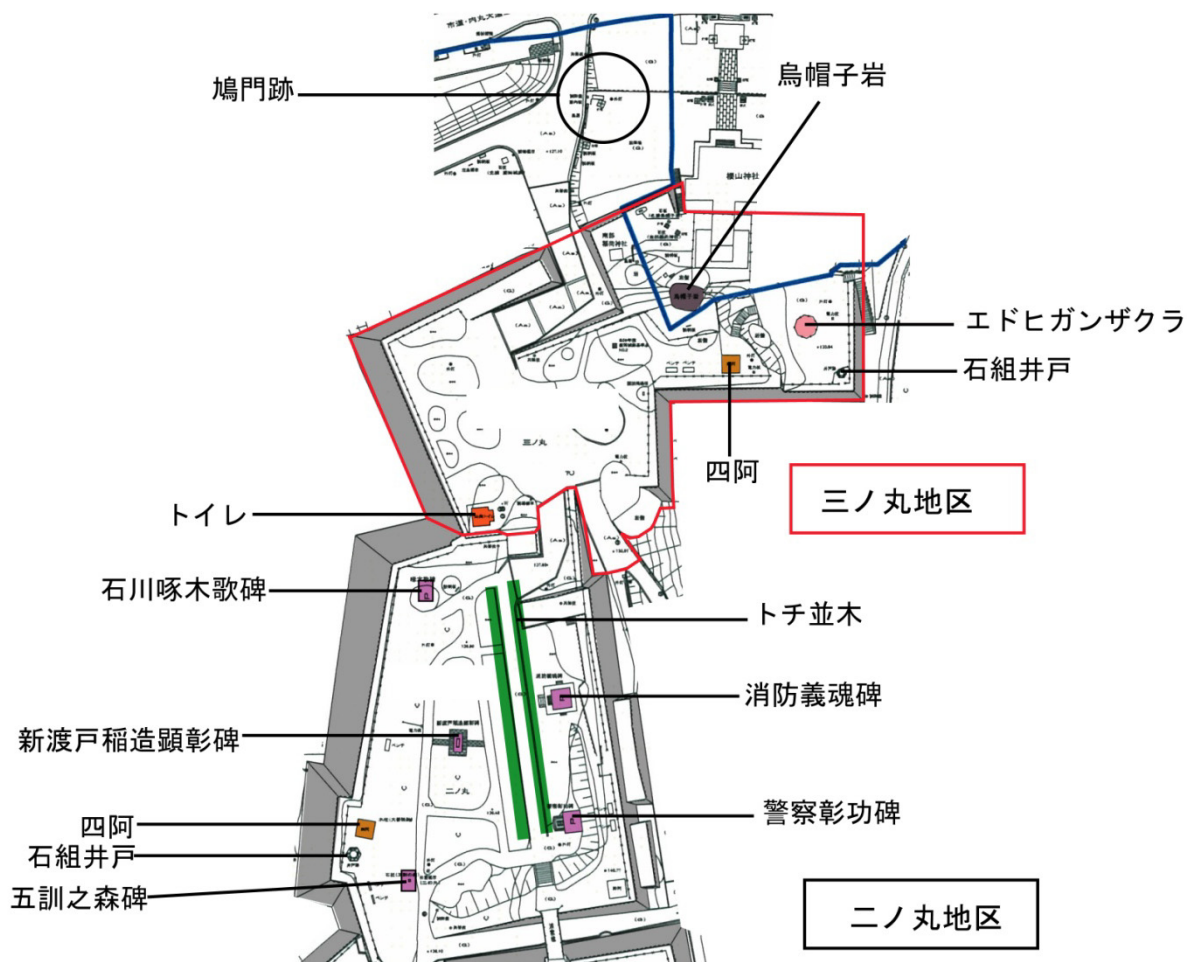
本丸北側の堀切を隔てて位置している。中ノ丸とも呼ばれ、南北 76 メートル、東西 40～58 メートルの広さをはかり、二ノ丸南東部では本丸よりも約 2 メートル低くなっている。明治期の公園整備の際には南側の地形が改変され、モミジ・カエデ類が植栽された。戦後に南北の園路に沿ってトチノキが植えられ、現在は大木となっている。

石川啄木歌碑（昭和 30 年（1955）建立）をはじめ、新渡戸稲像顕彰碑（昭和 37 年（1962）建立）、警察彰功碑（明治 42 年（1909）建立）、消防義魂碑（昭和 7 年（1932）建立）、五訓之森碑（昭和 7 年（1932）建立）の 5 基の石碑が存在し、盛岡城跡の中でモニュメント広場的な場所となっている。本丸同様、紅葉の時期をはじめ、季節を通じて多くの観光客が訪れている。

③三ノ丸地区

二ノ丸の北東側に張り出した縄張りで、東西 95 メートル、南北 56 メートルの広さをはかる。曲輪の中央部には烏帽子岩と呼ばれる花崗岩の巨石があり、烏帽子岩付近から北側は櫻山神社の所有地となっている（15 頁参照）。

三ノ丸は鳩門跡周辺地区から二ノ丸や台所方面等へ向かう場合の入り口としての性格を持つ地区である。



第 10 図 二ノ丸・三ノ丸地区現況図



石川啄木歌碑



新渡戸稲造生誕百年記念碑



警察彰功碑



消防義魂碑



二ノ丸西側の四阿



二ノ丸のトチ並木



烏帽子岩とその周辺



三ノ丸のエドヒガンザクラ

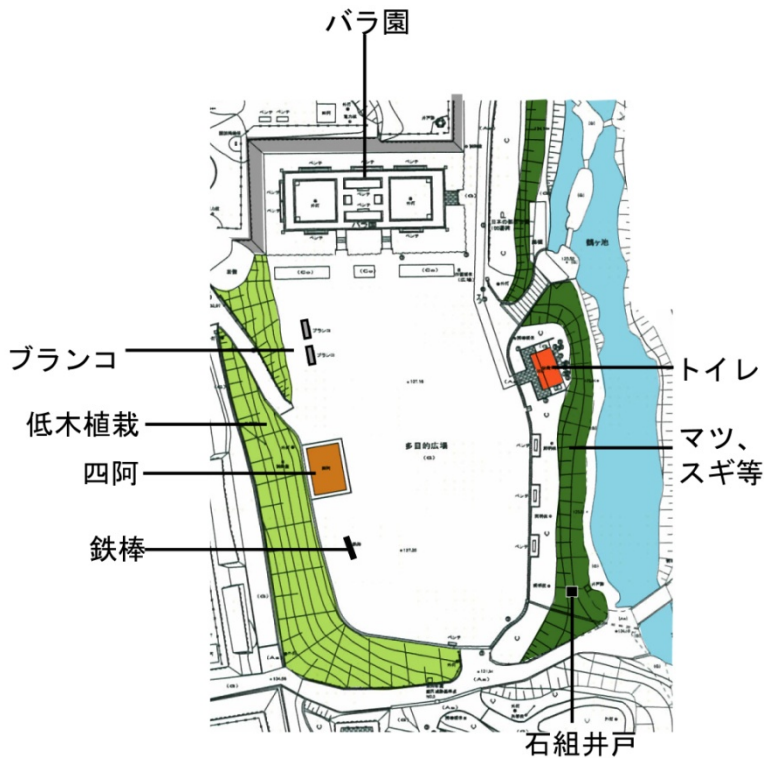
④台所地区

二ノ丸・三ノ丸，腰曲輪に三方を囲まれ，東側は内堀に面している。規模は，東西 55 メートル，南北 105 メートルの広さをはかる。

明治期の公園整備の際に運動場として整備され，現在も園内で最も広い広場をもつ地区として各種イベント会場となっている。

西側二ノ丸との間の斜面には低木類が植栽され，堀に面した東側にはマツ，スギ，サクラの高木が植栽されている。西側斜面は雨水によると思われる洗掘が目立つ。北側には昭和 32 年（1957）に整備されたバラ園があり，6月中旬から8月頃にかけて様々な種類のバラを楽しむことができる。

また，北西部と南西部にそれぞれブランコと鉄棒が設置されている。



第 11 図 台所地区現況図



トイレ



ブランコ



台所全景（西側本丸付近から）



東側スギと照明

⑤腰曲輪地区

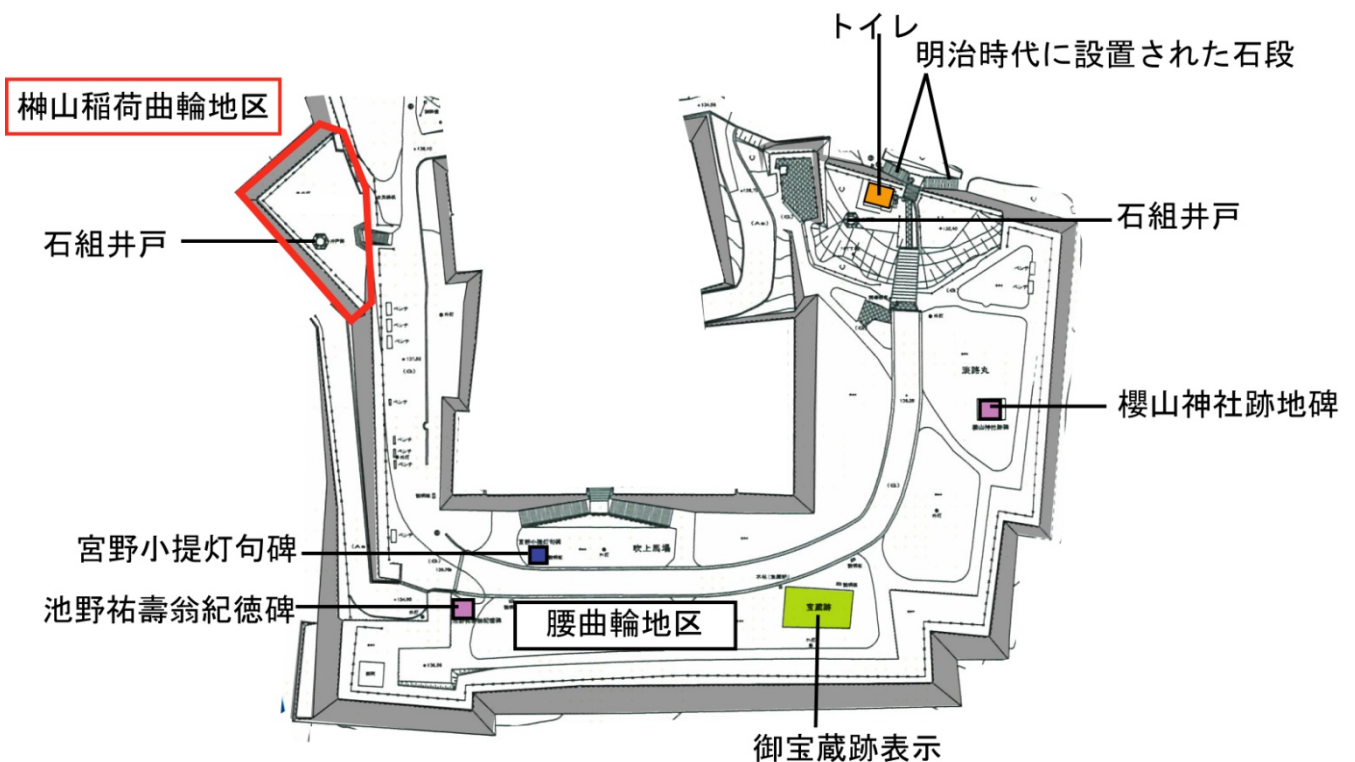
本丸の北面を除く三方を一段低く囲む曲輪で、本丸よりも約6メートル低くなっており、南辺の長さは104メートル、東辺は85メートル、西辺は95メートルの広さをはかり、曲輪の幅は東側で40メートルほど、南側で32～38メートル、西側では12メートルほどとなっている。東側北端には12×30メートルの低みがあり、石組井戸が残存している。

腰曲輪には明治時代の公園整備の際にサクラ（ソメイヨシノ）が多く植えられ、市内有数のお花見処となっており、盛岡市における開花基準木がある。

⑥榊山稲荷曲輪地区

腰曲輪の西側に三角形に突出した小規模な曲輪で、中央部が東西20メートル、東辺部が南北28メートルほどの広さをはかり、石組井戸が残存する。腰曲輪から約4m低くなっている。

腰曲輪への石階段が設置されているが、角度が急で蹴上げや踏み面が揃っていないため、非常に足場が悪い状況となっている。このため、ほとんど利用されていない。北東の一角には二ノ丸の地形改変の際に撤去されたと思われる石垣の石材が置かれている。



第12図 腰曲輪・榊山稲荷曲輪地区現況図



櫻山神社跡地付近



腰曲輪のサクラ



榊山稻荷曲輪



榊山稻荷曲輪の石段

2) 周縁部地区

① 櫻山神社参道地区

東西 87 メートル，南北 90 メートルほどの広さをはかり，三方が堀に囲まれている。ここは第 2 次世界大戦前まで櫻山神社の境内地であったが，戦後，海外からの引揚者等により商業地が形成され，現在に至っている。



空から見た櫻山神社参道地区



参道地区中央部